

理科(化学) 九州大学 理、工、農、医、歯、薬、芸術工学部

<全体分析>

試験時間 75分

<p>解答形式 選択・記述</p> <p>分量・難易 (前年比較) 分量 (減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加) 難易 (易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化)</p> <p>出題の特徴や昨年との変更点 文字式を含むやや煩雑な計算問題が出題された。</p> <p>その他トピックス C=C への Br₂ の付加反応(トランス付加)が出題された。 メソ体が出題された。 正答数が示されていない正誤判定問題が5題も出題された。</p>

<大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ	範囲	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
[1]	選択 記述	希薄溶液の性質	化学	ラウールの法則 沸点上昇, 凝固点降下 (冷却曲線)	標準
[2]	記述	気相平衡	化学	文字式を含むやや煩雑な計算問題	やや難
[3]	選択 記述	無機物質 結晶格子	化学	鉛, 亜鉛, 硫黄の単体および化合物の性質 閃亜鉛鉱と方鉛鉱の結晶格子	標準
[4]	選択 記述	脂肪族化合物	化学	C ₄ H ₈ の異性体 C=C への Br ₂ のトランス付加 C ₄ H ₄ O ₄ ジカルボン酸の異性体 ラセミ体・ジアステレオ異性体・メソ体など一部の教科書にしか記載がない用語が扱われた。	標準
[5]	選択 記述	合成高分子 アミノ酸	化学	ポリスチレン型陽イオン交換樹脂 グルタミン酸とそのメチルエステルの等電点	標準

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

<p>まず高校の教科書を丁寧に学習することが最も重要である。標準問題の演習で基礎知識を確認し、さらに応用問題や発展問題も演習しておくことが必要である。また長い問題文の内容を素早く的確に把握する練習と煩雑な計算問題を解くスピードを上げる練習もしておきたい。</p>
